

展覧会のご案内 令和8年度 企画展 「馬と生きる」

古い時代から、私たちの暮らしの側には馬がいました。移動や輸送、また戦いの場などで馬の活躍は大きく、犬追物や流鏑馬などの武芸も生まれました。今年は午年ということで、長い間私たちのパートナーだった「馬」にスポットをあて、馬に関する資料をご紹介します。

会場 武雄市図書館・歴史資料館 蘭学・企画展示室

会期 5月2日(土)～5月31日(日)

開館時間

日曜日～木曜日：9時～17時
金曜日・土曜日：9時～18時

※5月3日(日)～5日(火)は9時～18時 ※会期中無休

観覧料 無料

Gallery Talk

学芸員による
展示解説



5月 5日(火・祝)
5月17日(日)
5月23日(土)
14:00～

展示資料のご紹介

陶馬(とうま/とうば)

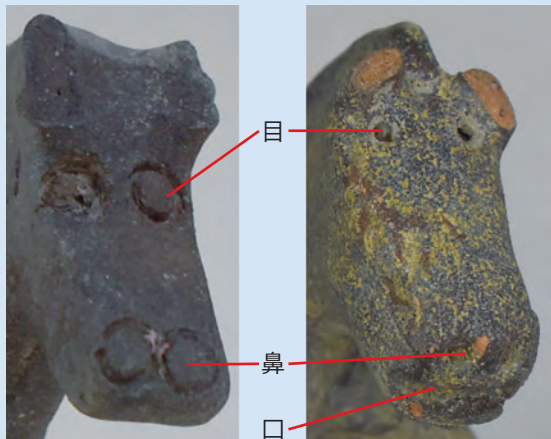
甕屋遺跡(武雄市西川登町)
武雄市教育委員会蔵



馬の形をしたやきものです。甕屋遺跡は甕屋窯の工房跡です。甕屋窯は、江戸時代の1620～30年代に操業していたとされ、陶馬もこの時期に作られたと考えられます。

顔に注目!

目や鼻、口をくぼみで表現しています。左の陶馬の目と鼻は、竹のような管状のものの断面を押し当てているため、リング状のくぼみになっています。



異人仕掛絵

江戸時代末期～明治時代初頭か
一川(歌川) 芳員 画
武雄市蔵

上からオランダ、ロシア、イギリス、フランス、中国、そしてアメリカの各国の人物が描かれています。アメリカ人だけ馬に乗っていますが、折りたたむことで、ほかの人も馬に乗った姿を見ることができ仕掛けになっています。



◀ 折りたたんだイメージ



